

庄川温泉郷

庄川温泉郷の源泉

庄川温泉郷（庄川温泉2号井）は、岩稲累層とその上部の医王山火山岩層の中に含まれている化石海水（古い時代の海水）を起源とし、それに地下水が加わったものです。泉質は塩化ナトリウムを主体とした塩類泉です。この二つの層が堆積した時代には庄川温泉郷付近は海の底で、海水が地層が堆積する時に取り込まれて化石水となりました。庄川温泉郷の源泉は、この化石水が高清水断層の破碎帯から湧き出しているものを利用しています。

この破碎帯は、三楽園横国道156号線沿いにあり現在では落石防止のため、コンクリートが吹き付けてあるので見ることはできません。以前は庄川町指定の特別天然記念物として紹介されていました。

庄川温泉三楽園の源泉（庄川温泉1号井）は、同じように高清水断層の破碎帯からわき出したものですが、成因は一号井とは異なります。破碎帯を上昇してきた二酸化炭素が地表近くで地下水に溶け込み、岩石中の鉱物との相互作用により変化を受けてできたものです。二酸化炭素とNaやMgが反応してできた NaHCO_3 MgCO_3 などを含んでいます。ほんの数百mしか離れていないのに、成因も成分も違って不思議なものですね。



高清水断層

高清水断層は、南砺市城端町から砺波市庄川町の高清水山地沿いに延びています。写真で紹介した庄川温泉三楽園横の露頭や南砺市井波町坂下の閑乗寺台地昇り口の東大谷川河床、千谷川の河床などで見る事ができました。この断層は活断層で、1992年に富山県から出版された地質図で計測すると、総延長は15km程度です。1998年に行われた調査では、千年あたり0.25~0.75mずつ垂直方向にずれているということが明らかになりました。

※図版は富山県編「10万分の1富山県地質図」（1992）による

